

各務原市議会議員 大竹 大輔

かえで通信

平成29年7月
第19号

発行人
大竹大輔を育てる会
会長 伏見 幸久



ご挨拶 梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。
皆さま、いかがお過ごしでしょうか？季節の変わり目です。
体調を崩さないようご自愛ください。

大竹 大輔

先月は、平成29年第2回各務原市議会定例会の一般質問に、多くの皆さまに傍聴にお越し頂き有難うございました。

空き家対策についての一般質問は、今回で5回目になりますが、空き家は私が住んでいる八木山小学校区のような傾斜地にある、今から50年ほど前に造成された住宅地のみでの課題ではありません。私が所属する政和クラブは、市内各小学校区にほぼ1名の議員がおりますが、どの小学校区においても空き家に関する様々な課題の話を伺います。空き家対策は、本市全体の課題であることを痛感致します。

本市は、空き家実態調査、空き家リノベーションモデル事業など様々な空き家に対する取り組みを先進的に行って参りました。そして、今年の7月にはイオンモール各務原に、移住定住に特化した窓口を開設し、空き家対策も行って参ります。私は、この取り組みに大きな期待をしております！議員各々に様々な考えがありますが、本市の諸課題については一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

この取り組みが「いつまでも住み続けたいまち、かかみがはら！」に必ず繋がって参ります！
皆さま、今月も何卒宜しくお願い致します！



平成29年第2回定例会6月議会報告 平成29年度がスタートして2か月目を迎えました。第2回定例会では、17名の議員が一般質問する活気ある定例会になりました。

平成29年6月2日から6月23日までの22日間の会期にて、平成29年第2回各務原市議会定例会が開催されました。平成29年度一般会計補正予算、条例の改正、財産の取得、市道路線の認定などなど計23案件が上程され、各議員において市民ニーズに沿ったものであるかどうか慎重に審査されました。また、今期定例会の一般質問では、私は増加する空き家に対する本市の取り組みについて、何点か一般質問させて頂きました。内容は次の通りです。

増加する空き家に対する本市の取り組みについて (平成28年度に実施された空き家リノベーションモデル事業を検証)

問(大竹大輔):貸し手側と借り手側はどのような登録があったか。また、どのような反響があったか？

答(服部都市建設部長):貸し手の登録は30件、借り手の登録は14件あった。貸し手側においては、相続した空き家をどのように活用すればよいかわからない、空き家を使って何かやってみたい、若者を応援したいなどのご意見を頂き、借り手側においては、DIYを趣味とし自分自身で改修しながら住むことに高い価値観を持ちたい、昭和レトロの古い家に魅力を感じるなどのご意見を頂いた。また、「自分の家族と暮らしていた愛着ある建物をもう一度使ってもらえるのはとてもうれしい。」「市が空き家の流通に関与して安心感がある。」などの反響があった。

問(大竹大輔):契約が成立するまでの過程はどうであったか？

答(服部都市建設部長):契約が成立するまでには、貸し手と借り手の希望する家賃に大きな開きがあり、双方の歩み寄りを促すことに苦勞した。また、借り手が物件を確認する際、民間事業者と市も立ち会うことにしていたため、四者の日程調整に時間を要した。これらの問題を解消するため、貸し手と借り手が納得する、簡易な家賃算定表を作成し、物件の確認は借り手と事業者の二者のみで実施可能にし、日程調整を容易にした。

問(大竹大輔):今回のモデル事業を行ったことで得られた成果は？また、今回の検討課題は何か？

答(服部都市建設部長):他には事例がない取組みであり、手探りの中で進めていったが、この事業に共感された方々の協力により、結果として3件の契約をすることができた。その過程から得た教訓などを取り入れ、市と事業者の役割分担を明確化した作業手順を確立でき、その上で、両者が連携した組織「空き家リノベーション推進会議」を立ち上げ、引き続き事業を展開していく枠組みができた。今後は事業者主導により、本事業を発展的に続けさせていくビジネスモデルの確立を目指し、市内外を問わずより多くの方々に本事業を知っていただけるよう、情報発信の効果的な手法について検討する。

問(大竹大輔):イオンモール各務原「移住定住総合窓口」での空き家対策の取り組みについては、どのように実施していくのか？また、不動産事業者をはじめとする関連企業や団体との連携は、どのように行うか？

答(山下乡長公室長):イオンモール各務原に開設する「移住定住総合窓口」において、空き家対策として、大きく2つの取り組みを実施する。

1つ目が、「空き家リノベーションモデル事業」と連携した「DIY型賃貸」の空き家物件の紹介。この空き家